Nakatsu Educational Office
NEO REPORT
令和６年３月６日
【中津教育事務所通信】

学校・家庭・地域の目標協働達成に向けた熟議にするために、今の学校運営協議会等にちょっとした工夫をしてみませんか

本県が目指す「地域とともにある学校」とは　（『「学校マネジメント」推進指針』【R５年９月】）より
○学校と地域がパートナーという関係の下、それぞれが当事者として「参画」しながら、共に子どもたちを育て、そのことを通じて共にこれからの学校や地域を創る理念に立つ
○支援を超えて、目的を共有し長期的な「双方向性」のある展望を持った「連携・協働」を行うことができる関係を構築した学校

学校によっては、学校運営協議会等でこんな悩みが･･･

○協議時間の大半が学校の説明であり協議が深まらない、学校運営上の悩み・困りに対しての協議にならない（形式的になっている）
○委員さんは「言ってくれたら何でもするよ」と協力的だが、学校の提案に対しての取組や前例踏襲の取組である（主体的な検証・改善とはなっていない）

①『データを基に課題を焦点化』し、課題意識を共有して協議を深める

管内で実施された学校運営協議会等から

学校が提示したデータ　焦点化された課題　協議内容

【A学校の取組】

○保護者アンケートの「親から子へあいさつ」の取組は、ほぼ100%できている
○児童アンケートの「進んであいさつができた」の肯定的回答はそう高くない

課題　子どもの姿につながる家庭の取組

このギャップを埋めるための改善方策（啓発方法・取組）について「家庭」で協議

【B学校の取組】

「学年ごとの学力の定着状況」と「家庭学習時間・就寝時刻のアンケート結果」の関係性を提示する。
⇒「学力の定着がよい学年ほど、家庭学習の時間が長く、就寝時刻が早い」

課題　「家庭学習時間・就寝時刻」の改善

「家庭学習時間・就寝時刻」の改善のために「家庭」でどんな取組ができるか

【C学校の取組】

達成指標の生徒アンケート「将来の夢を持っている」について肯定的回答が58%と高くない。（学校としては80%以上にしたい）

課題　将来の夢をもつ生徒の育成

４点セットの重点的取組「学習支援の充実・○地区の魅力の伝承」に対しての改善方策　※自分の考えを付箋に書いてからの意見交流を行う

【D学校の取組】

○児童ｱﾝｹｰﾄから家庭学習･音読に対しての肯定的回答の減少
○保護者ｱﾝｹｰﾄから家庭学習の呼びかけ・徒歩登校・早寝早起・ﾒﾃﾞｨｱｺﾝﾄﾛｰﾙに対しての肯定的回答の減少

課題　『家庭学習時間」の習慣化・生活習慣の改善

「家庭学習を含めた家庭での過ごし方、安全な通学や見守り、あいさつ」で、学校・保護者・地域で出来ること

②家庭・地域が当事者として協議を行うために…

管内で実施された学校運営協議会等から

【E学校の取組】

３つの部会（コミュニティ部会：学校の教職員も入る）に分かれて、『学校評価の４点セット』の改善方策・次期取組の周知方法を検討する。その後、学校運営協議会で各部会からの取組について協議をする。

⇒全体協議の前に、小グループ（部会）で協議を行う場を設定することで意見の出しやすい雰囲気をつくる工夫

【F学校の取組】

⓪学校運営協議会の前に、学力向上会議を行う。
※この協議で、委員から「学びに向かう力」に課題があるのではという話題になる。
①全体の場で、『学校評価の４点セット』等について簡単に説明を行う。
②地域・家庭のグループに分かれて、『学校評価の４点セット』の検証・改善と学力向上会議の中で出た「学びに向かう力」の育成についての協議を行う。
※「学校評価の４点セット」の検証・改善の枠（取組指標に対する取組状況の確認、達成指標・取組指標の妥当性を検証、改善方策）を空欄にして、色の枠囲みにしておく。
③全体の場に戻り、グループで協議した内容の報告を行う。

⇒家庭・地域に分けてグループ協議を行う場を設定することで、それぞれの取組に対してより具体的な協議につながった。
また、学力向上会議で出された児童に必要な力の育成についても、小グループでの協議に取り入れることで、「予定調和」ではなく、会の参加者の意見が尊重されたより当事者意識の高い協議となった。

【家庭と地域に分かれて協議】

【G学校の取組】

・『学校評価の４点セット』の家庭・地域の欄を色で強調する。
・『学校評価の４点セット』の「重点的取組」「取組指標」等を空欄にして協議を行う。
・作業部会ごとに、前回の話し合いの内容や今回協議する「重点的取組」や「取組指標」がまとめられた用紙を使う。
⇒今まで家庭・地域が行ってきたこと、これから協議することを明確化する工夫

③その他にも…

・学校の説明を端的（短め）に行い、協議時間を十分に確保する。
※学校提供資料の「成果は青色、課題は赤色」等に着色して分かりやすくしたり、資料の事前配付を行ったり、説明時間短縮にもつなげる学校があった。
・協議・質問については、「どこからでもご自由に…」だけでは、学校が本当に協議してほしいものにならないことも考えられる。学校が児童生徒の実態（データなど）から見られる課題を焦点化した上で、協議を進めるといった工夫も必要ではないか。

まとめ：目標協働達成に向かう熟議にするためには、学校のアセスメントとファシリテーションが必要

※アセスメント能力（様々なデータや学校が置かれた内外環境に関する情報について、収集・整理・分析し共有する能力）
ファシリテーション能力（学校内外の関係者の相互作用により学校の教育力を最大化する能力）